

## 詳細情報

当館と中国科学院動物学研究所の共同研究により、今年 10 月に日本古生物学会発行の英文学術誌「パレオントロジカル・リサーチ (Paleontological Research)」で新種として発表された世界初のドンコ化石です。

ハゼ目ドンコ科ドンコ属魚類は日本と韓国、中国に生息する淡水性のハゼの仲間です。8 種が知られています。今回の研究でドンコ属魚類は二つある背鰭の間隔が長い種と短い種の二つのグループに分かれることが判明しました。さらにイキムカシドンコは背鰭の位置関係が日本のドンコとほぼ一致することから、日本のドンコの直接の祖先ではないかと考えられ、日本のドンコのルーツを探る上でたいへん重要な化石であることがわかりました。

さらに、この化石の発見によってドンコ属魚類がおおよそ 1500 万年前にあらわれたこともわかりました。これはドンコ属魚類の分子生物学的研究からも推測されており、それを裏付ける化石としても重要です。

和名： イキムカシドンコ

和名の意味： 壱岐にかつていたドンコ

学名： *Odontobutis hayashitokuei* (オドントブティス・ハヤシトクエイ)

学名の意味： 属名「オドントブティス」はドンコ属の属名、種名「ハヤシトクエイ」は壱岐の化石の研究に貢献された林徳衛先生に献名されました。林先生は「壱岐島長者原産化石誌」を編纂されています。

体長： 約 8.5cm

採集地： 長崎県壱岐市芦辺町

産出層： 壱岐層群長者原層 (いきそうぐんちょうじゃばるそう)

時代： 新生代新第三紀中新世中期 (約 1500 万年前)

本種の特徴： 頭が小さいことと尾椎 (脊椎骨の後ろの部分) 数が 21 と多いこと

発表論文

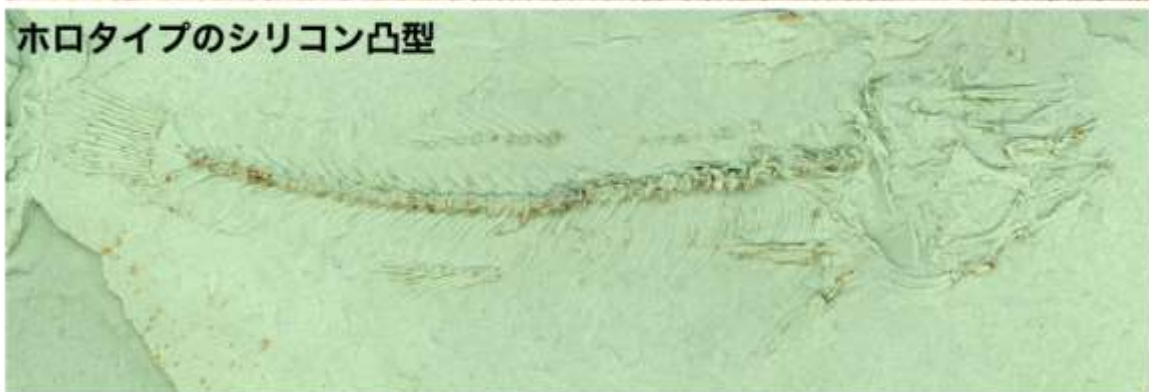
Yabumoto, Y. and C. Zhang. 2023. A new Miocene gobiiform fish, *Odontobutis hayashitokuei* from Iki, Nagasaki, Japan. *Paleontological Research*, vol. 27, no. 4, pp. 383–395.

(邦題：長崎県壱岐長者原産中新世ハゼ目魚類の新種 *Odontobutis hayashitokuei*)

※展示標本はホロタイプ (実物) です。ホロタイプとは、新種として記載する際の基準となった、世界にひとつしか存在しない標本のことです。

## 【化石の日】

2017年に国際古生物協会が「国際化石の日」を10月第2週の土日と制定し、古生物学の発展と普及を目的とする日本古生物学会が毎年10月15日を「化石の日」としたものです。毎年この日前後の期間で国内の大学や博物館など化石を扱う機関で「化石の日」関連イベントを開催して、古生物学や地球の歴史への興味関心を高める取り組みを行っています。当館でも2020年にプロトプテルム類新種化石の特別公開、2022年に北九州産出竜脚類恐竜化石の特別公開の他、各種関連イベントを開催してきました。



ホロタイプのシリコン凸型のスケッチ

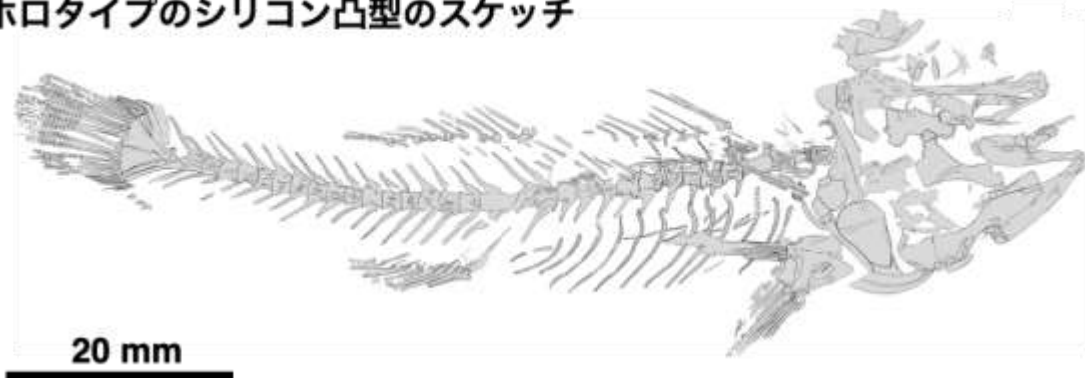


図 イキムカシドンコの化石（ホロタイプ）、そのシリコン凸型、そのスケッチ